発表！じゃらん 人気温泉地ランキング2020

行きたくなる温泉地 その人気の秘密

まちづくり、アクセス改善…あの有名温泉地も改革効果でランクアップ！

今年で14回目を迎えた「じゃらん人気温泉地ランキング」。じゃらんnet会員の投票により、計327の温泉地から注目のランキングが決定した。調査開始以来、常にランキング上位に位置し不動の人気を維持し続ける温泉地も多い中、じわじわと上昇を続ける温泉地もある。また行きたくなる、一度は行ってみたくなる、カスタマーの心をつかむ温泉地の取り組みを追う。

カスタマーが魅力を感じる温泉地はどのように作られている？

今回で14回目を迎えた「じゃらん人気温泉地ランキング」調査。もう一度行ってみたい温泉地を尋ねる「全国人気温泉地ランキング」では、1位～5位までが昨年と同じ順位という結果になり、上位は今回も安定した人気を保っていることがわかる。しかし票数からは、ここ数年2位に定着してきた草津温泉が、今回は1位にぐっと迫る勢いである様子も見える。また、有馬温泉も、昨年より1ランクアップして6位に。有馬温泉は数年にわたり徐々に順位を上げてきており、ついにベスト5が目前という位置まできた。両温泉地ともに特徴ある泉質が魅力。しかし温泉地自体を楽しむのが今どきの旅のスタイル。もう一度訪れたいと思わせる満足感は、温泉地を形づくる街抜きには考えることはできないだろう。温泉地により楽しみ方や、その活かし方はそれぞれ。訪日外国人客も少なからず影響を及ぼしているようだ。ところで、このまちづくりとは、改革するための素地がなければ難しいものだろうか？東北居住者1位に選ばれた秋保温泉は、ほぼゼロからまちづくりをスタートし、人の流れを作り出した好例となっている。

ランキングで上位を獲得した温泉地は、どのような取り組みで訪れた人々を引きつけるのか。一度だけではなくまた行きたいと思わせる温泉地の、人気の秘密を解き明かそう。

じゃらん 人気温泉地ランキング2020 調査概要と回答者プロフィール

調査概要

調査時期
2019年8月22日（木）～2019年8月30日（金）

調査対象
『じゃらんnet』会員

調査方法
インターネット上でのアンケートを実施

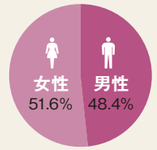
回収数
11,488人

有効回答数
11,488人

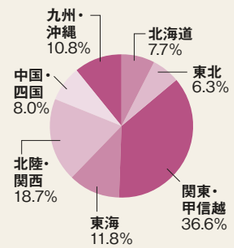
対象温泉
計327の温泉地を選択肢として設定

回答者プロフィール

性別（n=11,488）



居住地域（n=11,488）



全国人気温泉地ランキングベスト50

（n=11,488）

	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
第1位	箱根温泉	神奈川県	2053	1 →
2	草津温泉	群馬県	1967	2 →
3	登別温泉	北海道	1501	3 →
4	道後温泉	愛媛県	1402	4 →
5	別府温泉郷	大分県	1236	5 →
6	有馬温泉	兵庫県	1098	7 ↑
7	由布院温泉	大分県	1077	6 ↓
8	黒川温泉	熊本県	1025	8 →
9	熱海温泉	静岡県	964	9 →
10	下呂温泉	岐阜県	890	10 →
11	城崎温泉	兵庫県	858	11 →
12	指宿温泉	鹿児島県	852	12 →
13	乳頭温泉郷	秋田県	839	13 →
14	鬼怒川温泉	栃木県	756	14 →
15	和倉温泉	石川県	716	16 ↑
16	奥飛騨温泉郷	岐阜県	686	15 ↓
17	洞爺湖温泉	北海道	680	17 →
18	蔵王温泉	山形県	626	18 →
19	玉造温泉	島根県	617	19 →
20	阿寒湖温泉	北海道	606	22 ↑
21	加賀温泉郷	石川県	595	20 ↓
22	定山渓温泉	北海道	591	21 ↓
23	伊香保温泉	群馬県	575	28 ↑
24	湯の川温泉	北海道	558	23 ↓
25	霧島温泉（霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷）	鹿児島県	506	24 ↓
26	嬉野温泉	佐賀県	493	25 ↓
27	万座温泉	群馬県	474	29 ↑
28	秋保温泉	宮城県	469	27 ↓
29	雲仙温泉	長崎県	452	26 ↓
30	飛騨高山温泉	岐阜県	433	30 →
31	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	421	33 ↑
32	白浜温泉	和歌山県	418	32 →
33	層雲峡温泉	北海道	416	30 ↓
34	白骨温泉	長野県	402	34 →
35	ニセコ温泉郷	北海道	370	35 →
36	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森県	358	39 ↑
37	鳴子温泉郷	宮城県	354	36 ↓
38	銀山温泉	山形県	353	37 ↓
39	十勝川温泉	北海道	333	44 ↑
39	那須温泉	栃木県	333	39 →
41	四万温泉	群馬県	326	43 ↑
42	湯河原温泉	神奈川県	325	39 ↓
43	修善寺温泉	静岡県	324	38 ↓
44	花巻温泉郷	岩手県	293	42 ↓
45	三朝温泉	鳥取県	279	45 →
46	淡路島の温泉（洲本温泉・南あわじ温泉郷・岩屋温泉）	兵庫県	267	47 ↑
47	宇奈月温泉	富山県	263	50 ↑
48	みなかみ18湯（旧水上温泉郷・猿ケ京温泉・法師温泉・宝川温泉）	群馬県	248	53 ↑
49	伊東温泉・宇佐美温泉	静岡県	246	49 →
49	あわら温泉	福井県	246	51 ↑

これまで行ったことがある温泉地のうち、「もう一度行ってみたい」温泉地について尋ねた。複数回答5つまで

分析 1位は調査開始以来、連続で箱根が獲得。ベスト5の順位は昨年と変わらず

14年連続で不動の1位をキープし続けている箱根温泉。2位から5位までの順位も前年と変わらず。10位までの順位でも、有馬温泉が6位にランクアップして6位と7位が入れ替わった以外は変動なし。さらに45位までの順位も、多少の変動はあるものの前年と同じ顔ぶれとなった。順位を上げた温泉地としては、23位の伊香保温泉（5ランクアップ）、39位の十勝川温泉（5ランクアップ）、48位のみなかみ18湯（5ランクアップ）、36位の「十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉」（3ランクアップ）、47位の宇奈月温泉（3ランクアップ）など。

全国温泉地満足度 総合部門 ランキング ベスト10

	温泉地名	都道府県	満足度（%）	集計対象数
第1位	奥飛騨温泉郷	岐阜県	96.0	326
2	野沢温泉	長野県	95.3	106
3	乳頭温泉郷	秋田県	95.1	225
4	ウトロ温泉	北海道	94.8	134
5	草津温泉	群馬県	94.1	819
5	黒川温泉	熊本県	94.1	303
7	別府温泉郷	大分県	93.7	606
8	高湯温泉	福島県	93.6	110
9	万座温泉	群馬県	92.7	219
10	嬉野温泉	佐賀県	92.6	405

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地について尋ねた。「とても満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」と応えた人の割合を合わせて算出
1年間の訪問者数が100人以上（136温泉地）

全国温泉地満足度 秘湯部門 ランキング ベスト10

	温泉地名	都道府県	満足度（%）	集計対象数
第1位	湯平温泉	大分県	98.1	52
2	乗鞍高原温泉	長野県	94.9	59
3	龍神温泉	和歌山県	94.7	57
4	わいた温泉郷	熊本県	93.8	97
5	長湯温泉	大分県	93.5	93
6	久住温泉	大分県	92.9	99
7	小田・田の原・満願寺温泉	熊本県	92.8	69
8	小野川温泉	山形県	92.1	63
9	九重“夢”温泉郷	大分県	91.7	60
10	輪島温泉郷	石川県	88.5	78

1年間の訪問者数が50人以上100人未満（76温泉地）

分析 毎年変動の大きいランキングだが、1位は昨年と同じ奥飛騨温泉郷

顔ぶれが毎年変わる満足度ランキングだが、「総合部門」の1位は昨年と同じ奥飛騨温泉郷。2位に野沢温泉、3位に乳頭温泉郷。訪問者数50人以上100人未満の「秘湯部門」では湯平温泉が1位。2位の乗鞍高原温泉、7位の小田・田の原・満願寺温泉も昨年に続いてトップ10入り。10位までに九州の6つの温泉地がランクインした。

全国あこがれ温泉地 ランキング ベスト30

全体（n=11,488）

	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
第1位	乳頭温泉郷	秋田県	2001	2 ↑
2	由布院温泉	大分県	1865	1 ↓
3	草津温泉	群馬県	1822	3 →
4	道後温泉	愛媛県	1473	4 →
5	登別温泉	北海道	1358	5 →
6	下呂温泉	岐阜県	1218	8 ↑
7	別府温泉郷	大分県	1168	6 ↓
8	箱根温泉	神奈川県	1156	9 ↑
9	有馬温泉	兵庫県	1134	10 ↑
9	指宿温泉	鹿児島県	1134	7 ↓
11	銀山温泉	山形県	1101	11 →
12	黒川温泉	熊本県	1069	12 →
13	熱海温泉	静岡県	1053	13 →
14	鬼怒川温泉	栃木県	882	14 →
15	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	860	15 →
16	加賀温泉郷	石川県	661	16 →
17	蔵王温泉	山形県	591	18 ↑
18	洞爺湖温泉	北海道	583	17 ↓
19	和倉温泉	石川県	533	20 ↑
20	伊香保温泉	群馬県	526	22 ↑
21	白骨温泉	長野県	516	19 ↓
22	ニセコ温泉郷	北海道	450	21 ↓
23	城崎温泉	兵庫県	445	23 →
24	黒部峡谷温泉群	富山県	386	25 ↑
25	玉造温泉	島根県	352	27 ↑
26	宇奈月温泉	富山県	347	30 ↑
27	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森県	346	24 ↓
28	阿寒湖温泉	北海道	336	26 ↓
29	雲仙温泉	長崎県	327	29 →
30	奥飛騨温泉郷	岐阜県	308	34 ↑

まだ行ったことはないが、「一度は行ってみたい」温泉地について尋ねた。複数回答5つまで

分析 調査開始以来初のトップ入れ替わり。乳頭温泉郷が1位に

調査開始以来、前年までは13年連続で由布院温泉が1位だったが、今回は乳頭温泉郷が獲得した。3位から5位までは前年の順位と変動なし。10位までの顔ぶれは同じ。30位までで大きく順位を上げた温泉地は26位の宇奈月温泉（4ランクアップ）、30位の奥飛騨温泉郷（4ランクアップ）。

居住地別で見る 全国人気温泉地ランキング

北海道（n=887）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	登別温泉	北海道	426
2	阿寒湖温泉	北海道	235
3	洞爺湖温泉	北海道	235
4	定山渓温泉	北海道	210
5	湯の川温泉	北海道	207

東北（n=727）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	秋保温泉	宮城県	148
2	乳頭温泉郷	秋田県	147
3	花巻温泉郷	岩手県	109
4	鳴子温泉郷	宮城県	105
5	鬼怒川温泉	栃木県	104

関東・甲信越（n=4,200）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	草津温泉	群馬県	1195
2	箱根温泉	神奈川県	1145
3	熱海温泉	静岡県	551
4	鬼怒川温泉	栃木県	440
5	登別温泉	北海道	427

東海（n=1,361）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	下呂温泉	岐阜県	297
2	箱根温泉	神奈川県	257
3	草津温泉	群馬県	248
3	奥飛騨温泉郷	岐阜県	248
5	有馬温泉	兵庫県	179

北陸・関西（n=2,145）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	有馬温泉	兵庫県	443
2	城崎温泉	兵庫県	416
3	道後温泉	愛媛県	376
4	下呂温泉	岐阜県	257
5	登別温泉	北海道	239

中国・四国（n=922）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	道後温泉	愛媛県	224
2	別府温泉郷	大分県	180
3	有馬温泉	兵庫県	163
4	由布院温泉	大分県	154
5	城崎温泉	兵庫県	153

九州・沖縄（n=1,246）

	温泉地名	都道府県	集計対象数
第1位	黒川温泉	熊本県	379
2	別府温泉郷	大分県	287
3	嬉野温泉	佐賀県	279
4	由布院温泉	大分県	253
5	霧島温泉（霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷）	鹿児島県	188

分析 草津温泉、有馬温泉が居住地別では1位に

関東・甲信越で1位と2位が入れ替わり草津温泉が、北陸・関西でも1位と2位が入れ替わり有馬温泉がトップになった。それ以外のエリアでは、1位はいずれも前年と同じ温泉地が選ばれている。

発表！
人気温泉地ランキング2020

ランキング上位 温泉地の〝街〟の活かし方

温泉地の人気は「街」とともにあり

シンボルである湯畑を再開発。バス路線の開拓など若年層を取り込む手法も大胆に

草津温泉（群馬県吾妻郡）

全国人気温泉地ランキング
2位

居住地別全国人気温泉地ランキング
関東・甲信越居住者
第1位

温泉地を選ぶ理由は「街の雰囲気が好きだから」

このランキング調査では、温泉地を選んだ理由も尋ねている。下の表からもわかるように、バランス型といわれる箱根温泉も含め、温泉地を選ぶ理由として目立つのは「街の雰囲気が好きだから」。温泉そのものの魅力である「効能や泉質」を上回る温泉地が多く、温泉地にとってまちづくりがいかに大切かを実感できる。

ここでは各種ランキング上位を獲得した3つの温泉地の取り組みを紹介。いずれも歴史があり、散策が楽しめる街並みで知られている。しかしその受け継いだ財産に甘んじることなく、守るべき部分は守り、時代の変化の中で採り入れるべき部分には柔軟に対応することで、訪れる人の心を捉えることのできる旬の温泉地を作っている。

全国人気温泉地ランキング　ベスト6の選択理由

	手頃な料金で行けるから	交通の便が良いから	街の雰囲気が好きだから	自然に囲まれているから	周辺の観光スポットが充実しているから	温泉以外も楽しめるから	温泉の効能や泉質が気に入っているから
箱根温泉（n＝2,053）	29.1	56.0	58.5	45.2	17.3	10.7	32.4
草津温泉（n＝1,967）	22.9	19.9	73.0	32.8	9.4	9.4	65.8
登別温泉（n＝1,501）	16.6	17.4	39.6	48.6	8.4	5.5	57.5
道後温泉（n＝1,402）	13.6	18.7	82.5	9.3	9.4	6.5	37.7
別府温泉郷（n＝1,236）	18.9	23.5	63.6	20.4	14.6	6.8	60.5
有馬温泉（n＝1,098）	15.3	42.2	57.7	21.3	8.4	6.4	56.6

「もう一度行ってみたい温泉地」と回答した理由。12の選択肢より複数回答5つまで　※赤文字は回答者50％以上が選択

好評の湯畑ライティングは、東京駅丸の内駅舎のライトアップなどを手がけた面出薫氏がデザイン

棚田をイメージして作られた湯路広場。イベント時以外もリラックスして過ごせる場所となっている

日頃からサッカーで鍛えているだけに、ゆもみくんのショーは迫力満点。草津温泉の様々な場所で働きながら、プロのサッカー選手を目指す彼らを起用するという着眼点が面白い

自然湧出量は毎分3万2300ℓ以上、ドラム缶に換算すると1日に約23万本もの温泉が湧き出ている草津温泉。加えて、恋の病以外は治せないものはないといわれる日本屈指の強酸性の温泉力には根強いファンも多い。今回の全国人気温泉地ランキングではトップに迫る勢いを見せているが、居住地別ランキングの方では関東・甲信越で見事1位を獲得。支持を上げてきた背景には7年前から始まった改革がある。

2013年、草津のシンボルである湯畑周辺の再開発に着手。明治まで実在した日帰り入浴施設「御座之湯」を再建し、2014年にイベントスペース「湯路広場」を完成、2015年には名物の湯もみショーで知られる「熱乃湯」をリニューアルした。

湯路広場ができたことにより、観光客は湯畑の周りを散策するだけではなく、ゆったり湯畑を見物したり、ここで開催されるイベントを楽しめるようになった。2016年12月には湯畑とその周辺のライトアップが、2017年からは月に一度の「夜景散策ツアー」が始まり（4月～10月開催）、宿泊客が夜、街に出る楽しみもできた。ここまでの一連の動きでも十分に効果がありそうだが、特に若年層を意識した戦略も展開。草津には熱い温泉を薄めることなく入浴するための「湯もみ」という方法があり、「熱乃湯」ではショーとしてその様子を見学することができる。これまでは湯もみ娘（現：ゆもみガールズ）がその様子を紹介してきたが、2012年からはイケメン男子による特別公演「ゆもみくんショー」も登場。「ザスパ草津チャレンジャーズ」の選手たちが見せる迫力ある湯もみの技が好評で、不定期開催ながらこれを目当てに訪れる人もいるという。

しかし草津は、北陸新幹線軽井沢駅よりバスで約1時間20分、都心から車で約3時間超と、アクセスに恵まれているとは言い難い。既存の東京、新宿発のJR高速バスに増便を働きかけつつ、若者の街・渋谷を発着する東急バスに着目。2017年から運行を開始し、利用客は順調に伸びているという。現在も東急線沿線駅でのPR活動を継続し、草津温泉までの交通動線の認知度アップに努めている。

「草津を訪れる若い方と外国人旅行者は右肩上がりで増加中です。5、6年前から泊食分離も見受けられるようになり、飲食店の夕食時には行列ができるようになりました」（草津温泉観光協会事務局長　大川揚一さん）。特定日を除き毎週金曜日は「西の河原露天風呂」で混浴イベント、冬期には湯畑でツリーイルミネーション…。バスに乗ってしまえば、着いた先は夜までとことん楽しめる賑わいのある温泉地。宿泊施設も増加しているとのことで、この勢いがどのような結果に繋がるのか、来年以降のランキングにも注目していきたい。

外湯めぐりや街歩き。地域の普段の生活を楽しんでもらうスタイルを貫き続ける

野沢温泉（長野県下高井郡）

全国温泉地満足度ランキング総合部門
2位

野沢温泉は、江戸時代から続く「湯仲間」と呼ばれる自治活動で守られてきた13の外湯で知られる。地域の人の生活の場である共同湯すべてを観光客にも無料で開放している、全国的にも珍しい温泉地。30余りある源泉のひとつで100度近い湯が湧く麻釜（おがま）や、風格ある外観の大湯、ぶらぶらと歩くのが楽しい温泉街…。街の中のどこをとっても絵になる、懐かしい日本にタイムスリップしたような風景が残る場所だ。今回、満足度ランキングで高い評価を得た背景を伺ってみたところ「何も特別なことはしていないので、期待に添うような回答はできないかも」と、野沢温泉観光協会事務局長の森博美さん。湯めぐりも街歩きも、観光客がここで体験することは村の人たちの普段の生活の一部。近年はインバウンドにも人気が高いが、「あえて観光客の方に合わせることはしていません。このスタイルでいいという方に来て、過ごしていただければと思っています」（森さん）。

そんな野沢温泉にも、時代の流れで採り入れることになった変化はある。泊食分離への対応だ。湯めぐりや土産物を買うために、観光客が宿から外へ出る動きは元々ある温泉地。滞在日数が長い外国人観光客からの、夕食を外で食べたいという要望に応えているうちに自然に浸透してきたとのこと。新たにオープンする店もあるなど、温泉街の飲食店は以前より賑わいを見せるようになっている。

満足度で評価された背景には、このようなありのままのスタイルを貫くまちづくりがあってこそ。しかしアクセス面での改善にも抜かりがない。長野県の北信エリアに位置しているが、北陸新幹線によりその距離はぐんと縮まった。飯山駅からの路線バスもあるが、行政主体で新幹線開業に合わせ直行バスの運行を開始。ほとんどの発着時刻に合わせて出しており、利用客は年間12万人にも上るという。「地域の二次交通としてはなかなかの利用者数だと思います」（森さん）。新幹線を降りたら直行バスで25分。アクセスの改善も満足度をアップさせた要因のひとつとなっているだろう。

麻釜の風景。近くにはここで茹でたトウモロコシを売っているお店もある

13の外湯の代表格である大湯

湯温が高めの外湯の中で、適温で入浴しやすいと人気の熊の手洗湯（くまのてあらゆ）

晩秋の風物詩、お菜洗い。温泉を利用した洗い場で、漬ける前の野沢菜を洗うのもここならではの風景

まちづくり歴30年超で、新しい手法にも積極的。目指すは世界的温泉リゾート

有馬温泉（兵庫県神戸市）

全国人気温泉地ランキング
6位

居住地別
全国人気温泉地ランキング
北陸・関西
第1位

そぞろ歩きのできるまちづくりに30年以上も前から取り組んでいる有馬温泉。２０１０年には、若者の力で街を活性化させるべく、関西エリアの大学とともに「有馬温泉ゆけむり大学」を開校。活動のひとつとして行った卒業旅行の取り込みが宿泊商品としてヒットし、定着。高級路線の温泉地ながら、女性や若年層からも高い支持を得ることに成功した。全国人気温泉地ランキングでも、２０１２年の11位から、２０１８年は9位、２０１９年には7位、そして今回は6位と着実にランクアップを重ねてきており、今回の年代別ランキングでも20代、30代から高い支持を得た。

「１９８７年より行ってきているまちづくりプランを、５年ほど前に改訂しました。小エリアとしては宿泊料金が高いといわれていますが、それを逆手に取り、もっとプレミアムな、世界に誇れる温泉地作りを目指すことにしたのです」（有馬温泉観光協会会長　金井啓修さん）。３年ほど前から湯元坂界隈の空き店舗を改修。魅力的な店舗を増やすことで、情緒ある中心街の修景を図っている。「街がどんどん良くなってきているので、他からもやる気のある人やお店が入ってきています」（有馬温泉旅館協同組合理事長　賞谷逸郎さん）。

しかし、狙い通りに観光客は増加したものの、それにより地元の人の生活のための商店が減少するなど、住みづらい面が出てきているのも事実。観光公害を避けるためには、観光客が訪れることで、地元の人の生活の質が上がるように繋げていく取り組みが必要という。「小さな仕掛けも行っています。例えば、あるお不動さんではお賽銭を入れるとスキヤキソングと般若心経が流れるようにし、集まったお賽銭で花を欠かすことなく供えることができるようになりました。また、観光客が訪れるようになった小さな祠では絵馬やおみくじを作り、その売り上げで地域の人たちが集まる機会を持つことができ、コミュニティの維持に役立っています。」（金井さん）。まちづくりというと大きな改革の方にばかり目が行きがちだが、人が住んでいる場所だからこそ、生活に密着した小さな動きで実感できることもあるはずだ。

いつも賑わっている湯元坂。温泉街にはお座敷に上がる前の芸妓さんが接客するカフェや、お寺が営む写仏体験のできるカフェもある。既存のものを活用して新しい楽しみ方を提供するのが、アイデア豊富な有馬温泉らしい

マーケティング、国際化、ものづくりなど、その都度取り組む内容を変えているゆけむり大学

土地柄は保守的というが、まちづくりについての新しい取り組みにはまったく抵抗がないという有馬温泉。良いと思えば導入し、他の温泉地にも紹介する。「今までは地域間は競争という感じでしたが、これからは連携をしていく必要があります。連携し合うことで口コミで情報が広がり、次はこちらに来てくれるということに繋がっていくでしょう」（金井さん）。

温泉街へのキッチンカーの導入や、六甲有馬ロープウェーのスイス製ゴンドラに着目した周遊ルートの提案等、ネタがあれば貪欲に突き詰めて活用するのが有馬流。だからこそ表も路地裏も隅々まで楽しい発見が尽きない街ができあがり、多くの人を魅了し続けているのだろう。

「最近はサボっていましたが、情報発信をすればもっと順位が上がっていくのではないか。それだけのポテンシャルのある温泉地だと自負しています」（金井さん）。

有馬の湯といえば、鉄分と塩分を含む赤褐色の「金泉」とミネラルを含む透明の「銀泉」。写真は共同浴場「金の湯」横にあり、金泉に無料で浸かれる足湯

発表！
人気温泉地ランキング2020

観光地としてのベースが弱い街に賑わいを創出 ほぼゼロからスタートして観光客を呼び込んだ

秋保温泉（宮城県仙台市）のまちづくり

居住地別
全国人気温泉地ランキング
東北
第1位

仙台駅から車で30分。秋保温泉は自然に囲まれた山間に佇む温泉地。少し乱暴な言い方をすれば、数年前までのここは、温泉地ではあっても観光地ではなかった。住宅に混じって旅館が点在し、街歩きを楽しめるような軒を連ねる店はない。湯けむりが上る様子などシンボル的な風景や、地域の人が日常通う共同湯や湯めぐりもない。宿泊客は街に楽しみを求める必要がなかったのだ。結果、市内にあり距離は近いのに距離感のある温泉地という位置付けになっていた。「市内の若い人の中にさえ、『あきう』と読めず『あきほ』と呼ぶ人がいるほどです」（秋保温泉旅館組合事務局長　佐藤司さん）。ところが今では日帰り利用客も含めた総入れ込み数はほぼ右肩上がり中。名湯の揃う東北において、居住地別ランキングではここ数年にわたり1位を獲得。全国人気温泉地ランキングでも２０１５年の38位から２０１６年の28位にランクアップ以降はほぼ30位以内で安定している。

秋保温泉への人の流れができたのは5年程前から。しかし最初の構想は２００２年にまで遡る。当時の宿泊者数は１０２万人。ピークであり、やがて下がる兆しも見せ始めていた。実際、この後に宿泊者数は東日本大震災前にかけて80万人まで落ち込むことになる。旅館組合では危機感を抱き、ファン作りのために宿で連携した食文化イベントなどをスタート。秋保温泉には観光協会がなく、旅館組合がその役割を果たしてきたが、旅館だけの力では限界がある。団体旅行から個人旅行に移行していた時期で、宿泊客からは「街歩きをしたい」という要望が出始めていた。それまでは宿の中で完結する宿泊スタイルが主流。時代の流れを受けて早急にまちづくりを考える必要に迫られた。

宿泊客の需要は宿だけではない時代へ。危機感を感じてのまちづくり構想

旅館組合発、ＤＭＣとしてまちづくりを始動していく

２０１１年に、後にまちづくり会社であるアキウツーリズムファクトリーを共に運営することになる地域プロデューサー千葉大貴さんと出会い、観光による地域づくりの一歩を踏み出そうとする。しかし直後に発生した東日本大震災により約5年、その動きは中断を余儀なくされた。ただ、震災前にはまだ夢物語だったまちづくり構想が、観光客減少に続き震災を経験したことで詰まっていき、再開時には推進力が高まったという。本来ＤＭＯが行うべき事業を、ＤＭＣとして取り組むことに。まちづくりとは、それを信じて取り組む人がいなければ成り立たない長期的な事業である。そして今、総入れ込み数ではＶ字回復中で震災前より伸びている。秋保温泉では、どのような思いを込めた取り組みで人の流れを呼び寄せることに成功したのか。

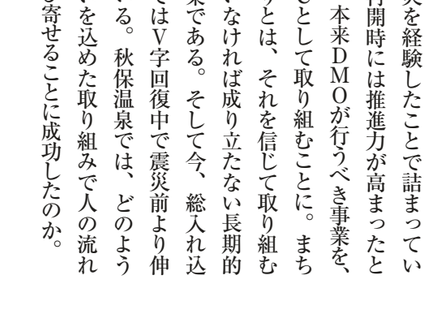
街の中を流れる名取川と温泉宿。住宅地の中で旅館の大型の建物が目を引く

秋保温泉旅館組合　佐藤 司さん（左）と森谷祐子さん（右）。組合は「伝承千年の宿　佐勘」の中に置かれ、少数精鋭で対応にあたる。「今が磁力のある時。この機を逃さずに、『AKIUは面白い』を定着させていきたいと考えています」（佐藤さん）

秋保温泉とは

539年頃	開湯
宿泊施設数	16（旅館組合加盟施設）
	旅館規模は大5軒、中5軒、小6軒、源泉は各宿ごとにある
	東北新幹線仙台駅よりバスで30分
2015年 12月	秋保ワイナリー創業
2018年 4月	アキウツーリズムファクトリー創業
7月	アキウ舎オープン

秋保温泉
宿泊者数＆日帰り利用者数＆総入れ込み数
（2009年～2018年）（秋保温泉旅館組合調べ）



宿泊者数は横ばい～微減で推移。県内の他の温泉地が苦戦する中で、秋保は踏みとどまっている状態といわれている

秋保温泉を変えた仕掛け人

ぶどうのイメージがない秋保に畑違いの建築家がワイナリーを設立

毛利親房（もうりちかふさ）さん

秋保ワイナリー代表

アメリカで生まれ育ち帰国。幼少期を仙台で過ごし、東京の建設会社を経て2014年に再び仙台へ。建築家として設計事務所に勤務したのち仙台秋保醸造所（秋保ワイナリー）を創業。建物は自ら設計。手にしているのはメルローロゼ。手前にあるのがJapan Wine Challenge 2019にて銅賞を獲得した「甲州シュールリー2018」

きっかけは東日本大震災。ワインの持つ力で人を呼べる観光地に

創業から5年目を迎えた秋保ワイナリー。毛利さんはカフェの大きな窓から隣接する土地を指し「あの場所にアメリカ人が手がけるクラフトビールの工場が来年できるんですよ」。自社のできごとではないのに実にうれしそうに話す。

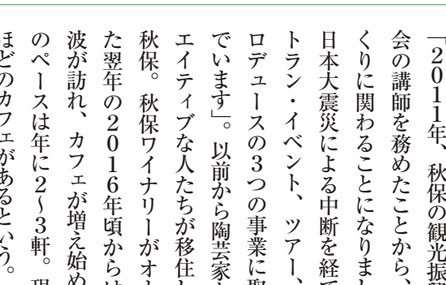
秋保ワイナリーが誕生した時、宮城県内にワイナリーは1つもなかった。それまで1軒だけあったワイナリーは東日大震災の津波で流され、県内のワイン産業は途絶えてしまっていた。建築家として自分が手がけた建物や町自体がなくなっている様を目の当たりにしてきた毛利さんは、宮城のワイン産業を復活させ、ワインの持つ、世界中から人を呼び寄せる力を地域の復興のために役立てられないかと考えた。お酒に弱く、醸造の経験もなく、そのための土地を所有しているわけでもなかったが。会社員を続けながら、ぶどうの木が育つ5年後ぐらいを目標に考えていたところ、縁のあった秋保で現在の土地を借りるきっかけが訪れ、脱サラをして創業することになった。一昨年は3万5000人、昨年は5万人と訪れる人は順調に増えているが、達成度としては最初に描いた事業計画の80%ぐらいという。しかし大切なのは収支だけではない。本来の目的である、ワインによる地域振興も様々な形で動き出している。

小さな酒蔵が集まる地域作りと「テロワージュ」の提案

宮城県のぶどう生産量は全国で44位～45位あたり。ぶどうの産地というイメージはない。しかし担い手を育てるワイナリーがあれば、地域にワイン産業を増やすことができる。「うちでは担い手の育成もしていますが、隣にオープンするブルワリーでも同じことを始める予定です。経営は違いますが連携をして、秋保の中にマイクロワイナリー、マイクロブルワリーを増やしていきたいという考えを持っています。この地域で酒蔵めぐりをできるようにしたい。名付けて『秋保クラフトバレー構想』。長期目標ですが、非常に楽しみです」。秋保ワイナリーが最初のきっかけを作ってから5年。県内にはすでに4軒のワイナリーができており、今年もオープンが続いていくという。

また、ワインをきっかけに人を誘う手法も毛利さんならでは。それが秋保発祥となる「テロワージュ」。フランス語で「気候風土と人との営み」を表す「テロワール」と「食とお酒とのペアリング」を表す「マリアージュ」を組み合わせた毛利さん作の造語で、風土を感じながらその土地の美酒と食材を味わってほしいとの思いが込められたもの。様々なイベントでテロワージュが企画されている。

「ワイナリーはどこにあってもいいし、何もないところにできてもいい。どこと連携してもいいし、距離は関係ない。そしてせっかく温泉地にあるので宿との連携も目指して、いつもと違う食の楽しみ方の提案もできればと考えています。地元の食で復興を応援するつもりが、逆にたくさんの応援を受けてここまできました。そろそろ恩返しをしなければと思っています」と常に謙虚な毛利さん。秋保ワイナリーでは来年にはレストランもスタート。構想はどんどん膨らみ、つながりも広がっていくに違いない。



秋保ワイナリーで開催されたテロワージュイベント風景。ぶどう畑を背景にまるでフランス?という雰囲気

観光地を目指すまちづくりに欠かせない「地域と観光地を繋ぐ役割」を担う

千葉大貴（だいき）さん

アキウツーリズムファクトリー代表

築160年の古民家カフェから秋保の食や楽しみ方を発信

秋保ワイナリーと並んで、秋保の立ち寄りスポットとして人気が高い「アキウ舎」。「築160年の古民家を改装したカフェ&レストランは、アキウツーリズムファクトリー（ATF）の取り組みのひとつとして誕生しました」。中庭を備え、地域の食材を目でも舌でも楽しませるメニューの数々。一昨年7月にオープン。1年目には3万人が訪れ、続く2年目も前年を上回るペースとなっている。イベントも頻繁に行っており、そのひとつ「伊達のテロワージュ」は伊達武将隊と共催する夜のイベント。客人への心からのもてなしを流儀とした伊達政宗公らが臨席する中で、地元の食とワインを味わうという劇中にいるような趣向だ。食もイベントも、随所に遊び心があふれた発想とセンスには脱帽。秋保ファンは、この店で間違いなく増えるはず。

伊達のテロワージュはこれまでに5回開催。現在（2020年2月時点）は伊達武将隊HPからの申し込み。毎回趣向を変えるという凝りようで、リピーターが多い

見て食べて楽しいアキウ舎のメニュー　上／一皿の中にローストやフライなど様々な調理法により野菜の旨みを味わえる「アキウ舎ランチ」　下左／スパイシーなタコライスを畑に見立てた「畑の中のアキウ舎ボウル」。ライスにはスコップですくった「土」をかけて　下右／秋保の発展を支えた秋保石をモチーフとしたホワイトチョコを、ハンマーでかちっと割って食べる「秋保採石ショコラ」

観光地としての成功が地域としての成功に結び付くように

このアキウ舎は秋保のまちづくりの拠点でもある。秋保を発見する旅としてサイクリングツアーを企画。街中を気軽に巡るもの、農道や里山を走るものや、かつて存在した秋保の忍者気分で歴史と自然をより体感できる「AKIU NINJA RIDE」など、秋保の観光振興の勉強会の講師を務めたことから、まちづくりに関わることになりました。東日本大震災による中断を経て、レストラン・イベント、ツアー、地域プロデュースの3つの事業に取り組んでいます」。以前から陶芸家などクリエイティブな人たちが移住していた秋保。秋保ワイナリーがオープンした翌年の2016年頃からは第2の波が訪れ、カフェが増え始めた。そのペースは年に2～3軒。現在15軒ほどのカフェがあるという。

「しかし店舗を経営していても街には住んでいないというケースもあります。いい街を作っていくためには、自治活動や、地域にお金が落ちる仕組みを作ることが大切。観光地としての成功が、地域としての成功に直結するとは限らないからです。そして地域自体を楽しむ観光スタイルに変わってきている今だからこそ、地域と観光地とを繋ぐ役割が大切。それをATFが担っているのです」。

秋保ワイナリーでも感じたが、この秋保温泉のまちづくりは、連携ということばがぴたりとくる。アキウ舎でも自分の利益だけを追求せずに、お客様には他のカフェの情報もどんどん紹介しているという。「地域全体が良くなれば、お客さんの母数も増えます。多くの人に来てもらい、地域が豊かになっていくことがまちづくりのゴールだからです」。

東北を拠点とし、食文化を中心とした豊かなまちづくりを目指し地域をプロデュースする仙台の会社、マイティー千葉重代表でもある。東日本大震災の復興応援　キリン絆プロジェクトの事務局も担当。「秋保に小さな店舗を増やす『小商い計画』も構想中」という

プロのガイドが案内するサイクルツアー。参加者には地域での消費をさりげなく促す。来年からはキャニオニングのツアーもスタートするという